

令和4年度 学校評価報告書

学校教育の 努力点（主題）	主体的に遊びこむ幼児の育成 － “やったね” “またやりたい！” と思える環境を工夫して－	Ⅱ
------------------	--------------------------------------------------	---

1 実践のねらい

幼児は身近な環境に関わるなかで、“おもしろそう” “やってみたい” と心を動かして遊び、その積み重ねの中で、次は“こうしてみよう” “こうしたらどうかな” と思いの実現に向け、自分なりに考えたり試行錯誤したりして、より主体的に遊ぶようになると考える。昨年度は、幼児が遊びこむ姿の読み取りから、環境の構成のポイントを明らかにする中で、とりわけ、5歳児におけるICT機器の活用は、視覚的に分かりやすく、幼児の興味・関心が広がったり、友達とイメージや情報を共有したりする手立てとして有用であることが分かった。そこで今年度は、昨年度の反省を踏まえ、それぞれの学年や時期ごとに幼児が遊びこむために大切にしたい環境の構成やそこに関わる教師の援助について理解を深めたいと考えた。そして、5歳児においては、ICT機器の様々な機能をどのように計画的に環境に取り入れていくかを考えることとした。

2 実践のねらいに迫るための手立て

- ① 学年の時期ごとに願う幼児の具体的な姿と必要な指導を考え、実践する。
- ② 事例検討会や研究保育を通して、幼児が遊びこむために、効果的な環境の構成を含む指導のあり方について理解を深め、次の実践に生かす。
- ③ ICT教材の活用やドキュメンテーション作成についての研修会へ参加する。
- ④ ドキュメンテーションやHP、保護者会等で、遊びの様子や育ちを保護者に伝え、幼児教育への理解が深まるようにする。

3 実践の内容

- ・ 事例検討会や研究保育を通して、一人一人の幼児が楽しんでいる姿を捉え、タイミングを逃さず、より遊びが楽しめるような環境（様々な素材や遊具、用具、場、ICT機器など）を用意したり、幼児が“もっとこうしたい” “こうしてみよう” とより環境に関わっていけるような言葉掛けを工夫しながら、教師も一緒に遊びを楽しんだりしていくことが大切だと分かった。
- ・ 5歳児が日ごろの遊びの中で、必要感をもってICT教材を扱えるようにしたり、アプリや平仮名入力での検索方法などを幼児に対する願いや必要な経験ができるように、計画的にタイミングよく取り入れられるようにしたりした。このことで、ICTの機能（写真・録音・録画・検索・ストップウォッチ・様々なアプリなど）を自分たちの遊びに合わせて選び、取り入れて、さらに意欲的に遊んでいく姿につながった。また、他園との交流ではアプリ「zoom」、地域の小学校との交流では動画機能を活用し、継続的に交流していくことで、互惠性のある交流活動をすることができた。

4 成果と課題

自己評価結果ではどの項目でも昨年度より高くなり、保護者アンケートも同様に高くなった。アプリでの各学級へのドキュメンテーションの配信だけでなく、他学年の様子を知る機会となるようドキュメンテーションのファイルを手に取りやすい場所に設置したことで、幼稚園と家庭とのつながりも深まった。また、小学校との交流や近隣への買い物等も行うなかで、地域とのつながりができ、学校関係者評価では、「幼児が主体的に遊びや行事に取り組む様子がよく分かり、教師の工夫を凝らした環境の構成や援助があることが幼児の育ちにつながっているのだと思う」とご意見をいただいた。

5 来年度に向けて

幼児が必要に応じてICT機器の機能やアプリ等を自分で選んで使ったり、自分なりの表現を広げていく手立ての一つにしたりするために、教師自身がICT機器の様々な機能を学びつつ、その取り入れ方を考えていきたい。